

## 旧約聖書の中の祈り

□「祈り」に関する学び全体のテーマ

1. 祈りの原則
2. 祈りの3つのタイプ
3. 旧約聖書の中の祈り
4. 新約聖書の中の祈り
5. 祈りの条件
6. 祈りの構成と内容
7. 祈りのルール
8. 祈りの諸問題

□「旧約聖書の中の祈り」の学びの進め方とその目的

旧約聖書の中には、全部で48の祈りがあります。これらの祈りをひとつひとつ学んでいて、祈りについてのいくつかの結論を導きたいと思います。その結論を先に言うと、次のとおりです。

1. 旧約聖書の中の祈りの大半は、とりなしの祈りである
2. 祈りは、しばしば、嘆願である  
神に何かを求める。たとえば、エリシャは、自分のしもべに天使たちの軍勢を見させてほしい、と神に願った。ヨナは、いったんは拒んで逃げてしまった使命を再び帯びて遣わされるようにと祈った。ヒゼキヤは重病の中で自分の命が助かるように祈った。ネヘミヤは周辺からの激しい脅しから守られるように祈った。
3. いくつかの祈りは、神に感謝をささげる、あるいは神をほめたたえる歌である  
そのような祈りをしたのは、たとえば、ハンナ、ダビデ、そしてハバクク
4. いくつかの祈りは、特別な状況の中で神のみこころを尋ねる祈りである
5. 祈りは、時として、神の約束に基づいてなされる  
モーセ、ソロモン、そしてダニエルは、それぞれ、それまでに神から与えられていた約束に基づいて祈った。彼らは、神が約束を守るお方であることを知っていたからこそ、その約束を握って祈ったのである。
6. 祈りは、時として、罪の告白を伴う（ダニエル9章）
7. 祈りは、時として、祝福の祈りである  
レビ族の祭司がイスラエル民族全体のために祝福の祈りをする（Ⅱ歴代30:23~27）
8. イスラエル民族の中で責任ある地位につく指導者は、民族全体のために祈る責務を負う  
そのような例は、サムエル、ソロモン、そしてエズラ

9. 祈りには、時折、付随した行動が伴う。泣く、断食する、荒布を着る、灰をかぶる
10. 祈る時、人々は様々な姿勢をとっている。立つ、跪く（ひざまずく）、両手を上に伸ばす、エルサレムとその中にある神殿の方を向く、犠牲の動物を前にして祈る、寝室で壁の方を向く、など
11. ダニエルは1日のうちに3度、時間を決めて祈っていた  
特定の時刻を祈りの時間とするような定めは、ない。しかし、一日の中で、自分で時間を決めて祈る習慣をつけることは、神との交わりを通して祝福を受けるために必要
12. 祈りは、モーセの律法の中で義務付けられていない。また、あらかじめ書かれた式文のような祈りは、旧約聖書の中にひとつもない。祈りとは、自分が必要を覚え、その必要に応じる力を神が持っている意識している人から、自然と沸き起こってくるものである。
13. 祈りは、時折、犠牲をささげながら祈られる。犠牲をささげないとしても、犠牲をささげる場所や時間と関連付けて祈ることもあった
14. 旧約聖書の中に記録された祈りには、大きくは5つの要素がある
  - (1) 神による導き
  - (2) 神による癒し
  - (3) 神のさばきを免れる、あるいは止める
  - (4) 神に自分の個人的な望みや必要を求める
  - (5) 神に特別な状況のもとで守りを求める

本日は、48の祈りのうち、最初の10の祈りを学びます。

□本日のアウトライン

1. アビメレクの家への裁きに関して
2. 火の裁きに関して
3. 蛇の裁きに関して
4. アロンの罪に関して
5. イスラエルの人々の罪に関して
6. ハンナの祈りに関して
7. ハンナの歌に関して
8. イスラエルのため、サムエルによるとりなしに関して
9. イスラエルが王を要求したことに関して
10. 王を要求したイスラエルの民族的罪に関して

## 旧約聖書の中の祈り【48の祈り】 ①

1. アビメレクの家への裁きに関して
  - (1) 創世記 20 : 1~18 とくに 7 節と 17~18 節
  - (2) 神はゲラルの王アビメレクの家を罰せられた。その理由は、サラをアブラハムの妻とは知らなかったとはいえ、彼女を取り上げ、自分のハーレムに入れたから。
  - (3) 神はアビメレクに対して、アブラハムのところに行き、彼に祈ってもらうよう命じた。アブラハムが祈ると、アビメレクの家に対する神のさばきは止まった。
  - (4) 旧約聖書に記録された最初の祈りは、アブラハムによる祈りで、アビメレクと彼の家の者たちのための癒しの祈りである。この祈りは、とりなしの祈りである。
2. 火の裁きに関して
  - (1) 民数記 11 : 1~3
  - (2) イスラエルの人々が、モーセに対して不満を申し立てた。神は、イスラエルの人々の間に火をおこし、多くの人々が死んだ。
  - (3) ついにイスラエルの人々がモーセに助けを求めて叫んだ。モーセが神に向かって祈ると、裁きは取り去られ、火は鎮まった。
  - (4) この祈りも、とりなしの祈りである。
3. 蛇の裁きに関して
  - (1) 民数記 21 : 4~9
  - (2) とりなしの祈り
4. アロンの罪に関して
  - (1) 申命記 9 : 20
  - (2) 背景は、出エジプト記での金の子牛事件。その像を造ったのはアロン
  - (3) とりなしの祈り
5. イスラエルの人々の罪に関して
  - (1) 申命記 9 : 26~29
  - (2) 同じく、金の子牛事件。アロンだけでなく、神はイスラエルの人々をも滅ぼし、モーセからあらためて神の民を起こすと言われた。それに対してモーセは、神が先祖アブラハムと結び、イサク、そしてヤコブへと引き継がれたアブラハム契約の約束に基づいて祈った。
  - (3) とりなしの祈り
6. ハンナの祈りに関して
  - (1) 1サムエル 1 : 9~28、特に 10 節 (泣く)、11 節 (誓願を立てる)、12 節 (長い祈り)、13 節 (心のうちでの祈り)、26~27 節 (誓願を果たす)
  - (2) 不妊の女ハンナは、男子の出産を求めて祈った。個人的な願いではあるが、この時代において女性に子ができないのは、女性にとって恥であるとされていた時代的背景を理解する必要がある。

7. ハンナの歌に関して
  - (1) Iサム 2 : 1~10
  - (2) 1節 ハンナは、祈って言った（正しい訳は、「祈った、そして言った」）  
ハンナは、男子を産む前に祈った。そして、現実に男子を産んだ後で、同じこの歌を歌った。
  - (3) この祈りは、歌または詩の形式で、彼女の祈りが答えられたことについて感謝をささげ、神をほめたたえるものである。
8. イスラエルのため、サムエルによるとりなしに関して
  - (1) Iサム 7 : 5~6
  - (2) とりなしの祈りであるが、同時に、2つのことが付随している。
    - ① 罪の告白
    - ② 断食
9. イスラエルが王を要求したことに関して
  - (1) Iサム 8 : 4~9
  - (2) サムエルは民の要求を快く思わなかった。王を要求するということは、サムエルの支配を拒否し、士師の時代を幕引きとすることを意味したからである。
  - (3) サムエルは自分で結論を出す前に、神の前に祈った。この祈りは、ある決定をすることと関係した祈りである。
10. 王を要求したイスラエルの民族的罪に関して
  - (1) Iサム 12 : 19~25、特に 19 節と 23 節
  - (2) サムエルは民から、王を指名するよう頼まれた。サムエルが神の前に祈ると、神は誰を王とするのか示した。
  - (3) 民が王の指名をサムエルに頼んだ理由は、王を要求したことが神の前に罪であったことを理解したためである。民はサムエルにとりなしの祈りを願ったわけである。サムエルは民に言った「私は、あなたがたのためにとりなしの祈りはする。しかし、今回は、この罪を正すことはもうできない。」イスラエルの民は、もはや、士師ではなく、王とともに歩まねばならなくなった。そしてその王は、サウルである。
  - (4) しかし、サムエルは、引き続きイスラエルの民のためにとりなしの祈りを祈り続けた。なぜなら、彼がもしその祈りをやめれば、それは彼の罪となる。サムエルは祭司であり、士師であった。この二つの職務において、イスラエルの民のために祈ることは、彼の責任のひとつであった。
  - (5) （現代の私たちへの適用）霊的なリーダーは、彼のもとにある信者たちのために祈る責任がある。